



新しい年ももう一か月が過ぎようとしています。
DGの皆様、良い年をおかえられましたでしょうか？
今年もどうぞよろしくお願ひいたします。
混沌とした世の中だからこそ気持ちだけでもゆとりを持って・・・
とは思いますがなかなか思うように行きません。
俳句を詠むのにも、ゆとりは必要なのですけれど・・・
そんな中でも、うさおさん、健さんは
しっかり句を詠んでいらっしゃるようです。

まずうさおさんの句から拝見しましょう。

霜柱キシッ踏み倒しまだ踏み倒し

これ面白いです。ただ字余りが気になります。

*霜柱きしっ踏み倒し踏み倒し

天を指す枝に冬芽の化粧かな

良いですね。冬芽を化粧と見たところがすばらしいです。
良い句だと思います。

バランスを取れず氷に腕を突き

あら、大丈夫ですか？これも面白くて良いですよ。

*バランスを取れず氷に足取られ でも良いかな？

革靴に鋏を打ちたや凍てた道

う～ん、良くわかります。

*革靴に鋏を打ちたき雪道路

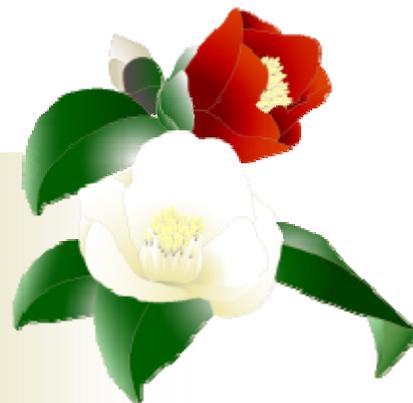
うさおさん、腕を上げられましたね。
自然に気負わず詠んでいらっしゃるのが良いです。

続いて健さんの句です。

冴える夜や月に水無き海のあり

月の海と呼ばれるところが黒っぽく見えている。
寒い時期には尚更はっきりと見えますよね。
季語との兼ね合いも良いし、雰囲気のある良い句ですね。





ほどほどに出来ぬ性分水仙花

健さんの性分でしょうか・・・

これも良い季語を選ばれています。良いですね。

天狼は地平に座して春を待つ

ムードのある句ですね。本か映画のワンシーンのようです。

*天狼の地平に座して春を待つ

駅コシの弦楽流る冬銀河

駅の構内のコンサートでしょうか？

*冬銀河弦楽流る駅構内

寒に入る書架に小振りの月球儀

まず季語の使い方が上手い。そこに月球儀を持ってこられたのが成功。すばらしい、一句になりましたね。

固まりて昭和の家族福寿草

昭和の頃、家族はひとつに纏まって暮らしていた。

そんな懐かしい思いが福寿草という季語でより明確になっています。

固まりて・・・が少し気になります。

*肩寄せて昭和の家族福寿草

うさおさんも健さんも、本当に良い句を詠まれるようになられましたね。

俳句を作る楽しさも感じていただいている事と思います。

次回の投句がますます楽しみになりました。

この調子で、どんどん良い句を詠んで下さいね。

大島の紬男の初詣

銘々にケーキ選ぶや女正月 ゆうこ

